

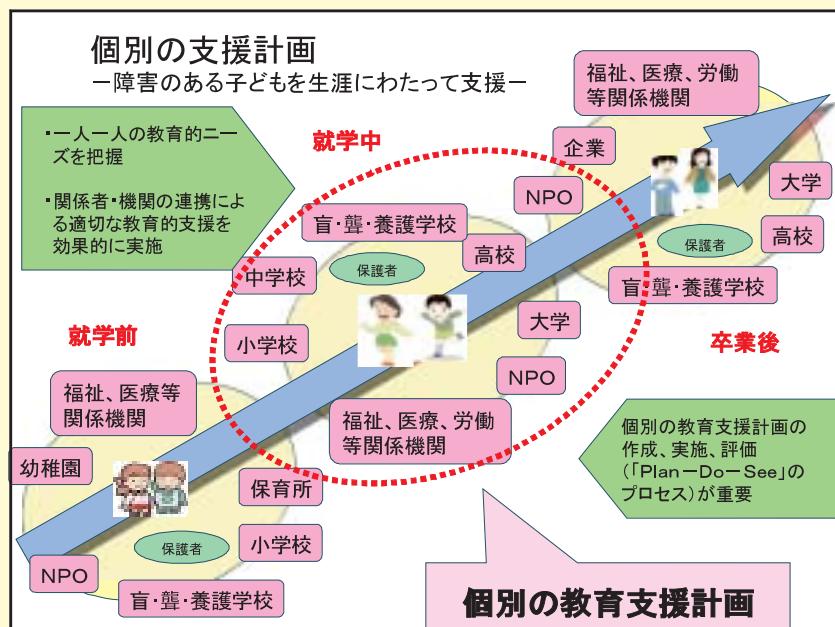
幼稚園、小学校、中学校、高等学校における 個別の教育支援計画の策定と活用

策定の目的

障害のある幼児児童生徒の一人一人の教育的ニーズを正確に把握し、適切に対応していくという考え方の下、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組を含め、関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保しながら、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的として策定されるものです。

策定の対象

対象は、障害のある幼児児童生徒で、特別な教育的支援の必要な場合に策定することができます。



道教委では、個別の教育支援計画が本人・保護者のものであり、支援者とともに共有、活用できるものであるとの視点で「**個別の教育支援計画モデル**」(平成17年4月)を作成しておりますので、参考にしてください。

※「個別の教育支援計画モデル」を掲載した道教委のWEBサイトのURL ↓
<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/kobetsu/kobetsunokyouikusinenkeikaku.htm>



「個別の教育支援計画モデル」を活用した例

(様式1)

フェイスシート

(作成日：平成18年〇月〇〇日 学年：小学校3年)

● 氏名・住所等

本人	ふりがな なかむら じろう	性別	生年月日 平成 9年
	氏名 中村 二郎	男	○○○-○○○
	住所 〒 〇〇-〇〇〇〇 〇〇市.....		
	入所施設	無・有	



LD等も含めた障害のある児童生徒等への適切な指導や必要な支援を行うため、関係機関の役割分担を明確にして一人一人に応じたオーダーメイドの計画を策定します。

計画の策定に当たっては、子どもの実態を把握し、フェイスシートにまとめます。その際、障害の状態だけでなく、指導の手がかりになる本人の得意なことや好きなことを把握することが大切です。

● 特徴

得意なこと、好きなこと、興味・関心の強いこと	<ul style="list-style-type: none"> 積み木ブロックや粘土などで恐竜や動物等を作ることは好きだが、途中でやめてしまうことが多い。 テレビが好きで、見てないようなときでも、テレビを消されると自分でつける。 テレビ漫画のキャラクターの名前をよく知っている。
苦手なこと、嫌いなこと、さけなければならぬないこと	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の理解が未熟であり、筋道を立てて経験したこと話をすることが苦手である。クラスでの話し合いにはほとんど参加しない。 算数では、繰り上がりや繰り下りのある計算でつまずきがみられ、文章題が苦手である。 予測していない大きな音が苦手であり、何の音かが分かれば安心するが、分かるまで不安が強い。

フェイスシートには、「特徴」のほかに、生育歴や障害の状態等について、必要に応じて記載できる項目があります。

計画は、本人・保護者のものですので、保護者に書いていただきながら、教員が記載することになります。個人情報ですので、項目によっては、保護者の希望で記載しない場合も考えられます。

計画には、まずははじめに本人と保護者の希望を記載します。

一人一人の子どもの教育的ニーズに対応した適切な指導や必要な支援を行うためには、本人・保護者の希望を的確に反映させることができます。

「課題」として、設定した理由を記載します。
課題の設定理由を明確にすることで、子どもの教育的ニーズを具体化するとともに、支援の目標を適切に設定することができます。

この欄は、保護者と教員や支援者（機関）が相談しながら記載することが大切です。

課題に対応した支援の目標を設定します。目標は、まず、長期を見通したものを設定します。この事例では、2年間の期間で設定していますが、子どもの実態に応じて、各学校において適切な期間を設定することが必要です。

目標に基づく支援は、担任のほか、関係者が連携して取り組めるよう工夫することが大切です。

(様式3)

個別の教育支援計画

氏名	中村 二郎	性別	男	学校名	〇〇市立〇〇小学校
作成者	○ ○ ○ ○	作成日	平成 18 年 〇 月〇〇日 (. . . 修正)		

本人・保護者の希望

	現在の希望	将来の希望
本人	友だちがたくさんほしい。	大きくなったら、お父さんのようにがんばって働く人になる。
保護者	言葉や、読み書きが他の子と同じ程度にできるようになってほしい。教室から勝手に出ていかないようにになってほしい。	自分の夢を見つけて実現させてほしい。

● 課題の設定の理由

ひらがな、カタカナ及び漢字の読み書きが難しいため、国語を中心として、各教科での読解に関する学習が難しい状況にある。算数では、繰り上がりや繰り下りのない計算は正しく答えることができるが、文章問題では、問題文の内容を理解することにつまずきがみられる。しかし、文章の内容を図で説明すると理解することができる。書くことについても、時間をかけると正しく書けるため、本児の認知特性に応じて指導方法を工夫したり、学習時間を保障したりするなど、個別的に配慮することが必要です。

● 課題・支援の目標

	課題	支援の目標（長期）
①	ひらがな、カタカナ及び漢字の読み書きが困難なために、学習への意欲が低い。	本児の認知特性等に応じた学習環境を設定するとともに、学習への意欲を高める。
②	興味・関心の少ない学級活動などの集団活動への参加が難しい。	2人、3人などの小集団の活動を活用し、段階的に社会性を高める。
③	発音の誤りがみられ、話すことに対して自信がもてない。	通級指導を活用し、発音の誤りを改善とともに、興味・関心のある遊びなどを通して話すことへの自信を育むことが必要である。

長期の目標を達成させたため、より具体的な短期の目標を設定します。目標設定の期間は、例えば1年にするなど、子どもの実態に応じて設定します。

短期の目標に対応する支援内容と支援機関を明確にします。この事例では、担任だけでなく、特別活動での担当者と通級による指導の担当者の3者による指導及び支援が、計画に位置付けられています。

計画は保護者をはじめ、指導及び支援に当たる者が互いに連携して策定することが大切です。

通級指導教室においても、個別の教育支援計画を踏まえた個別の指導計画を作成します。

● 支援内容・機関等				
支援の目標(短期)	支援内容	支援機関・連絡先	評価時期	評価
① 本児の認知特性に基づき、学習の個別指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ティーム・ティーチングで行う指導の機会を増やしながら、スマートスアップによる個別指導を行う。 	○○ 小学校 学級担任 ○○教諭 T.T教諭 ○○教諭 ○○サポーター ○○教諭 ☎○○○-○○○○	1.9. 3	
② 集団活動において楽しむ場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中での本児の頑張りを把握して認めるなど、ほめられることが多い場面づくりを工夫する。 本児ができそうな内容を取り上げ、活動の中で認知特性に応じながら具体的に指示する。 	○○ 小学校 「みんなのひろば」 担当者 ○○教諭	1.9. 3	
③ 正しい発音を聞き分ける力を養うとともに、自分の気持ちを表出することができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 本児が興味・関心のある内容の会話をを通して、正音をたくさん聞くことができるような場面を設定する。 本児の自発的な行動や発言を重視し、尊重する。 	○○ 小学校 「ことばの教室」 担当者 ○○教諭 ☎○○○-○○○○	1.9. 3	

「みんなのひろば」の指導計画においても、個別の教育支援計画を踏まえた指導や支援の内容を記載することが大切です。

個別の指導計画」を作成し、指導に具現化します！

在籍学級の個別の指導計画の例

(3年3組 中村二郎)					
長期目標	学習面		生活面		
	① 文のまとめを意識しながら、音読できる。 ② 2年生までに習った漢字を正しく書ける。 ③ 主語、述語が分かり、心情を表す言葉を読み取れる。 ④ 繰り上がり、繰り下りを理解できる。		① 学習の準備、整理整頓ができる。 ② 自分の行動を振り返られる。 ③ 生活グループでの話し合いで、自分の意見を言える。 ④ 進んで身体を使って遊べる。		
留意事項	◎ 自信をもたせる工夫をし、自己評価を下げないようにする。 ○得意なことをみんなに認められる機会を多く設定し、自信をもたせる。 ○困ったときには、助けてもらう合図を出せるようにする。 ○クラスの中で孤立させないようにする。 ○大きな環境の変化が合った場合、説明して不安にさせないようにする。				
短期目標	・ 指定された文章を「、」や「。」で区切つづまずかないで読める。 ・ 「はじめに、次に…」などを使って順序の分かる簡単な文章を書ける。 ・ 主語、述語と心情を表す言葉を読み取れる。		・ 用具の準備と後始末が自分で素早くきれいにできる。 ・ 話し合いで、自分の考えや思ったことに理由をつけて言える。 ・ 休み時間には、グラウンドや体育館に行って元気よく遊べる。		
	単元 読)「おにたのぼうし」		手立て ・ 板書で登場人物を色分けしたり気持ちを吹き出しにする。 ・ 「おにた」という言葉にマーキングして見つけやすくする。 ・ 個別に配慮した学習シートに調べたこと、分かったこと、考えたことを書かせる。		
結果		・ 板書や教科書のマーキングを手がかりに「おにた」の気持ちを学習シートにまとめることができた。			

長期目標は、個別の教育支援計画の短期目標と関連付け、期間は1年を想定し、短期目標は、学期を想定するのが一般的です。

※ 「個別の指導計画」については、盲・聾・養護学校の学習指導要領において、自立活動の指導と重複障害者の指導について作成することが明示されていますが、「小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）」（文科省）には、小・中学校におけるLD等の指導においても、個別の指導計画を活用することが示されています。

必要に応じて、各教科等における指導や支援の方策を記載します。単元ごとに具体的な内容を記載することが大切です。

○ここが知りたい!○

Q 個別の教育支援計画は、どうして関係機関と連携して策定するのですか？

A 児童生徒等に対する指導や支援については、学校だけでなく、児童生徒等の状況に応じて、保健、福祉、労働など、様々な分野の方がかかわって行われます。したがって、効果的な指導や支援を行うためには、これらの支援者（機関）が連携し、役割分担を明確にしておくことが大切です。また、就学前から学校、学校から就労機関など、各ライフステージ間で、指導や支援が適切に引き継がれることも必要なことから、関係機関と連携して計画を策定することが大切です。計画の策定に関する関係機関の選定に当たっては、現在支援に当たっている支援者（機関）が中心となります。

Q 個別の教育支援計画は、だれのものですか？

A 道教委が作成した「個別の教育支援計画モデル」においては、本人・保護者が主体的に活用することが基本となるため、その管理は、本人・保護者のものとしています。したがって、在学中は、学校が、本人・保護者の委任を受けて計画の原簿を保管・管理しますが、卒業時には、本人・保護者の手元に戻されます。

Q 個人情報の保護については、どのように考えたらよいですか？

A 計画は、それ自体が個人情報であると考えることができますし、本人・保護者のものとして、その保管・管理や活用については、慎重に取り扱う必要があります。
「個別の教育支援計画モデル」においては、計画の策定にかかわって、本人・保護者の申し出ないし同意を、書面（申し出・同意書）により明らかにすることとしており、計画の保管・管理を学校に委任することについても、同様に書面（委任状）による意思表示を必要としています。また、計画の策定や改訂、活用、評価に際しては、学校が本人・保護者以外の関係者・機関から本人に係る個人情報を収集することも想定されるため、あらかじめ、本人・保護者から書面（同意書）による同意を必要としています。

参考

- ・個別の教育支援計画FAQ（道教委）
<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/FAQ/個別の教育支援計画FAQ.htm>
- ・本道の小・中学校等におけるLD・ADHD・高機能自閉症等を含む障害のある児童生徒の教育支援体制整備のためのガイドブック（道教委）
http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/guide_book.htm
- ・個別の指導計画「A to Z」（道立特殊教育センター）
<http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/06siryou/atoz/atoz.pdf>
- ・小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/01/04013002.htm

北海道教育庁生涯学習部学校教育局特別支援教育指導グループ

平成19年3月発行

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 電話011(231)4111(代)内線35-783